

日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局

日本ボストン会の発展を願って

副代表幹事 藤盛紀明

今、私の手元に勤務先の技術研究所の作成した災害関連報告書が三冊置かれている。グアムと奥尻島の地震被害調査報告書、長崎ハウステンボスのヨットハーバー入口に設置したフレキシブルマウンド(特殊ゴム製の見えない波除け堤)の台風12号来襲時の効果報告書である。今年は冷夏で自然災害の多い年でしたが、皆様および皆様のご親戚、お知り合いの方々は大丈夫でしたか。もし不幸にして何らかの被害にあわれた方には心からお見舞い申し上げます。

さて、本日(9月8日)日経テレコム(データ検索システム)で1993年のボストン関連記事を検索してみました。何件あったとお思いですか。303件です。朝日新聞128件、読売新聞73件、日経54件、毎日新聞48件です。

記事の幾つかを紹介すると、「ジョン・ウィリアムス今回限り」「ボストンセルティクス・レジューミス死去」「ニューヨークタイムズ、ボストングローブ紙の買収を決定」「谷口選手が四位で復活ボストンマラソン」「モネと印象派・ボストン美術館展」「素顔の雅子さま」等です。中には「女性がボストンバッグをひったくられる」等も検索されているので、303件がすべて米国ボストンの記事ではありませんが、日本のボストン

熱は非常に高いと感じられる昨今です。

それだけに今後、当日本ボストン会への参加の増加が期待されます。会員の皆様にはお知り合いの方を是非お誘い下さい。僅か5千円で終身会員と言う会は余りないと思います。会は仲間作りのチャンスを提供します。皆様が積極的に提案・推進されて(会報等を通じて)どんどんワーキンググループが活性化される事を期待します。

既にニューイングランドコンサバトリーご出身の松岡英子さんをお迎えしてのコンサート、ハーバード大の柳沢幸雄先生(当会の幹事)の地球環境問題のご講演が実施され、NE日本歴史研究会・歴史を飲む会もスタート致しました。

8月30日の読売新聞によれば、日露講和条約の舞台になったポーツマスのホテル「ウエントワース」の保存が問題になり、地元では具体的な基金調達活動が始められております。

本会の発足のきっかけはこのような日米の歴史的な遺物等に物心両面の支援をして行きたいと願ったことから始まっています。この種の事は関心の無い方に無理にお願い出来るものではありませんが、是非ご支援の手を挙げて戴ければと思います。ご賛同戴ける方は是非、藤盛までお申し出で下さる様をお願い申し上げます。

「ゆかりのホテル残したい」

地元で保存運動 「日本からの協力を要請」

日露戦争の講和会議の際、日露全権代表団が宿泊した米ニューハンプシャー州ポーツマス郊外のホテルの保存活動が、地元や日米協会の手で進められている。

このホテルは、同市郊外のニューキャッスル島にある「ウエントワース」である。

講和会議の本会議は海軍造船所で開かれたが、

両国の代表団はこのホテルに滞在し、小村・ウイッテ両全権の非公式折衝の舞台にもなった。

現在、ホテルは閉鎖され、一部は取り壊されたが、日露代表団が宿泊した主賓館と正面玄関の外郭だけが残されている。

ニューハンプシャー日米協会も保存活動を進める決議を採決し、日本からの協力を求めている。

地球環境問題 ウソとホント

ハーバード大学公衆衛生大学院准教授
地球環境産業技術研究機構主席研究員

柳沢幸雄

《事実、解釈/予測、対応策》

話の内容が余りに大きい場合、大風呂敷を広げていると揶揄されてしまう事がある。大風呂敷とは嘘の事であるが、地球環境問題を語るには、事の性質上どうしても大きな話になってしまう。どれほど大きいか例を示そう。今地球上には、50億人以上の人が生きている。億単位の数字はなかなか実感できないが、その巨大さを知るために、この50億人を一人ずつ数えてみよう。一秒間に一人ずつ名前を呼んで行くと、50億人目の名前を呼ぶのは実に158年後になってしまう。これ程までに地球は大きい。

その上地球環境問題は、現象が複雑に絡み合っているのだから、直感的に把握する事が難しい。何が原因で何が結果なのか、何が事実で何が解釈なのか、なかなか識別する事ができない。従って少々嘘を織りまぜて話をしても、そう簡単には嘘が見破られる心配はないので、気楽に大風呂敷を広げる事が出来る。

しかしその逆に、話手がどんなに本当の事だけを伝えようとしても、地球環境問題の話は、眉に唾をつけながら聞かれてしまうという悲しむべき状態に陥る事もある。人類の生存に対する脅威である地球環境問題の本質を、全ての人に簡潔に、そして正確に伝えていく事が、この問題を研究している者の務めであろう。

話が複雑に絡み合ってしまう理由として、観測された事実、その事実に対する解釈と事実を基にした理論的将来予測、その予測される将来に適切に対処するための対応策の決定、つまり事実、解釈/予測、対応策と言う性質の違うこれら3つの因子が明確に識別されていない事が挙げられる。

《地球温暖化》

二酸化炭素による地球の温暖化という地球環境問題を例にして、何が事実であり、何が解釈/予測であり、どのような対応策が考えられるのかを簡単にまとめて見よう。まず観測された事実とし

て、空気中の二酸化炭素(CO₂)の濃度が、毎年毎年増え続けているという点を挙げる事が出来る。産業革命以前は280ppm(これも極地の氷の分析から得られた観測事実である)であったCO₂濃度は、年々1ppm以上の幅で増加している。

CO₂には熱線である赤外線を吸収する性質があり、地表から放出される熱の一部が空気中のCO₂に吸収されている。この効果は太陽から距離が等しい月と地球を較べてみると理解し易い。空気の全く無い月の平均気温は零度以下であるが、CO₂を含む空気に覆われている地球の平均気温は十数度である。CO₂の温室効果のおかげで、地球では液体の水が存在できる。ここまですべて事実である。

産業革命以降空気中のCO₂濃度が増加したのは、石炭、石油や天然ガスなどの化石燃料の燃焼量が増え、それによって生じたCO₂の排出量が増えた結果であると解釈されている。空気中のCO₂濃度が増加すると、地表から放出される熱のより多くの部分が吸収されると理論的に考えられるので、地表の温度が上昇すると予測できる。もちろん地球という精巧に出来た天体には、少々の変化であれば自動的に打ち消せるような防御機構が備わっている。したがってCO₂などの温暖性ガスの濃度が増えた結果、どの程度地表の温度が上昇するかを理論的に予測するには、地球の自動防御機構の一つ一つについて、詳細に検討しなければならない。この自動防御機構の効果をどの程度に見積もるかによって、地表温度の上昇幅の予測値が違ってくる。広く受け入れられている上昇幅として、21世紀の末に3度程度地表の平均気温が上昇すると予測されている。

《抑止/適応/放置》

このように予測されている未来に対して、私達はどのように対応策をとるべきであろうか。抑止/適応/放置の三種類の対応の方法がある。つまり、①技術的、社会的な方法で、温暖化の進行そ

のものを抑止しようとする方法、②地球上には現在でもいろいろな気候帯、気温帯があり、それぞれの自然条件下で人々は暮らしているのだから、地球温暖化によって自然条件が変化しても、その変化に適応出来るような方策を取るという方法、そして③地球の自動防衛機構の効果が大きいので地球の温暖化の程度は小さい、あるいは地球温暖化の問題は人知を超えているのでこのまま何もせず放置するという対応の方法である。この三つの方法の中間的な方法もある。例えば、自然条件の変化にスムーズに適応するために、急激に温暖化が進行しないように、温暖性ガスの排出量の抑制を図るといった方法である。

どの対応策が望ましいか、あるいはどの対応策を取るべきかは、理論的予測の精度をどのように評価するかという評価の問題と共に、自然そして人間の存在をどのように認識するかという問題に帰着する。

誕生以来46億年の歴史の中で、地球は一瞬も休む事無く変化し続けてきた。温暖化も数多くの変化の内の一つで、避ける事の出来ない事柄なのかも知れない。自然をそのように認識するならば、私達は温暖化という変化に適応する以外に方法はない。温暖化に伴う自然条件の変化にスムーズに適応するためには、急激に温暖化が進行しないように、温暖性ガスの排出量の抑制策を講ずるのが当面最も妥当な対応策であると思う。

《地球温暖化の抑止策》

既述のように温暖化は、温暖化ガスの吸収によって地表からの熱が宇宙へ放出されづらくなることによって起きる。温暖化の進行を抑止するには、温暖化ガスの濃度を減らして地表からの熱を多く宇宙へ放出するか、太陽から地表に注ぐエネルギーを少なくすればよい。

火山の大爆発が起きると、微小な噴煙や硫酸化合物が変化してできた硫酸の細かいミストが成層圏に長い間留まり、太陽からのエネルギーが地表に到達するのを妨げる結果、地表の温度が低下する事がある。この現象を利用して、人工的に硫酸を成層圏に撒いて温暖化の進行を止めようという案が提案されている。この提案は、散布による環境への副次的悪影響の有無がはっきりと分かるまで実行する事は難しいであろう。従って温暖化ガ

スの濃度を減らす事が、当面の主要な抑止策になる。

温暖化ガスの濃度を減らすには、空気中への放出量を減らすか、空気中からの除去量を増やすという2つの方法がある。空気中への排出量を減少させる方法について考えてみよう。CO₂は、主に化石燃料の燃焼によって空気中に排出されるので、化石燃料の使用量、すなわちエネルギー消費量を減らすという方法がある。生活水準を下げずにエネルギー消費量を減らすには、節約、利用効率の向上、リサイクルなどの省エネルギーによって温暖性ガスの排出量を減らすことが出来る。

エネルギー節約の具体的な方法として、商品の輸送、人の移動距離を短くする為の都市改造、エネルギー、原材料の輸送距離を短縮する為の産業再配置、自動車から大量輸送機関への転換、建物の断熱率の向上などによる空調需要の減少、包装の簡素化、食生活の改善などの生活スタイルの変更、農業生産に伴うエネルギー利用の合理化などが考えられる。

エネルギーの利用効率を向上させる為には、発電、原油からガソリンなどの分溜、石炭の液化・ガス化・微粉化などのエネルギーを変換するときの効率を向上させるための技術開発が求められる。また工業生産においてエネルギーの利用効率は、既存の生産工程の中で熱需要の綿密な管理や、エネルギー原単位の小さな新しい生産技術の開発などによって向上させることが出来る。自動車などの輸送手段の燃費を向上させる為の技術開発は、生活水準を下げずに省エネルギーを図る上で非常に重要である。さらにリサイクルや廃棄物の利用は、エネルギー資源以外の資源の有効利用にもつながる。

《結び》

地球温暖化の対応策は、その方法が地球全体からみて、温暖化ガスの排出量の減少に寄与しているかどうかを基準にしてまず評価しなければならない。次にその方法が経済的に合理的な方法であるかが評価されるべきである。

(1993年6月11日、青山アンダンティーノでの講演を基にした書き下ろし)

'93年度年次総会式次第

1993年10月18日(月) 午後6時30分開会
於NEC三田ハウス芝クラブ

1. 開会の辞 司会 藤盛紀明
2. 吉野代表幹事挨拶
3. 乾杯
4. 会務報告・WG報告
5. 会計報告
6. メドフォード日本語学校ホームステイについて
7. 「ボストンへようこそ」誌の紹介
8. 新任代表幹事選出
9. 新任代表幹事挨拶
10. 1994年度計画・WG勧誘
11. 新入会員紹介
12. 会員PR・挨拶
13. パーティー
14. 閉会の辞

ボストンへようこそ

(ボストンでの楽しい暮らしのガイドブック)

ボストン日本人会婦人部編集スタッフの制作・編集による「生活ガイドブック・・・ボストンでの楽しい暮らし」が出版されました。売上金はこの本を土台にして、より一層充実した改訂版を作るための資金にしたいとのことです。その主な内容をご紹介します:

出発準備、ソウシャル・セキュリティ・ナンバー、銀行・小切手・クレジット・カード、税金、家探し・契約、運転免許証・車、保険(医療・自動車・生命)、医療(仕組み・主治医・診療の受け方・歯科治療)、教育(アメリカの教育制度、学校選びの目安・ボストン日本語学校、アメリカ国歌)、食生活と家事(スーパーマーケット探検、シーフード、食料品店、台所器具/用品、住まいのクリーニング)、ショッピング(ショッピングモール、お買い得ショッピング)、ボストン日本人会、観光・娯楽、公共交通機関、電話・電報・郵便、近所の挨拶・冠婚葬祭、住宅の賃貸解約・売却、帰国手続き等々ボストンの生活情報が満載。会場に於ける頒布価格は一冊1,500円です。

投稿

松岡英子

先日は日本ボストン会主催の「講演と音楽の夕べ」において、ピアノ演奏の機会を与えて頂き、有り難うございました。

私、昨年末にニューイングランド音学院を卒業し、2年間のボストン留学生生活を終えて帰国致しました。そして向こうで大変お世話になっ方を通じて、この日本ボストン会発足の次第を知り、早速、会員にさせて頂きました。

当日は、柳沢幸雄先生の大変興味深いご講演と、私の拙い演奏に続き、立食スタイルのレセプションで会が締めくくられました。ご出席の皆様各々に、ニューイングランド地方に滞在経験をお持ちになられる共通点があるだけに、お話しがはずんで、とても和やかな雰囲気でした。あちらでの思い出話や近況報告に至るまで、色々な会話が飛び交う楽しい一時を過ごしました。

私、ボストンに行く前に特別な準備をしなかったため、初めのうちは語学の面でとても苦労致しましたが、今になってみると人生において、貴重な体験ができたことを本当によかったと思っています。ですから、その同じ土地幾年月を過ごされた人達との交流、つまり、「日本ボストン会」にとっても親しみを感じ、またいつか皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

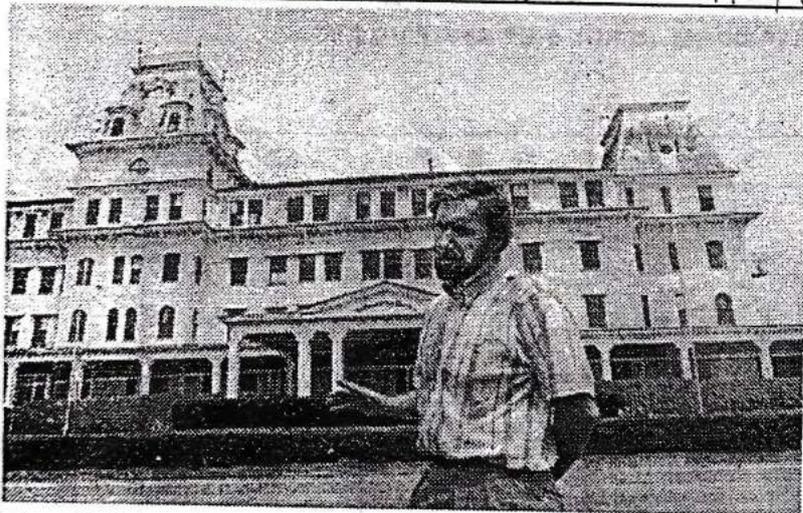
最後になりましたが、この「講演と音楽の夕べ」に出演させて頂くにあたり、色々とお世話下さいました幹事の方々に、この場をお借りして心からお礼申し上げます。

去る6月11日、「講演と音楽の夕べ」がコンサート・サロン「アンダンティノ」(赤坂・青山一丁目角)で30余名のご出席者をえて、開催されました。

ご出演願いました柳沢先生からはパネルを使用して環境問題についての分かり安いお話しと、松岡さんの若さ溢れるピアノ独奏による素敵な曲目に一同聞きほれ、お二方にはギャラなしでご奉仕戴きましたことを申し添え、感謝を申し上げます。

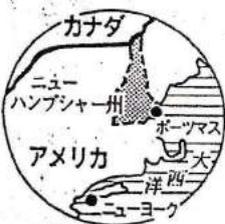
次回は新春にレディス会(コンサートとお茶の会)を企画しております。(事務局)

日露ポーツマス条約の舞台となったホテル「ウエントワース」の前で修復案を説明するドリアック弁護士



このホテルは、同市郊外のニューキャッスル島にある「ウエントワース」。

講和会議は、一九〇五年、日露戦争を終結させるため、米大統領ルーズベルトのあっせん下で実現。ポーツマス軍港で開かれた会議では、日本側代表の小村寿太郎外相とロシアのウイッテ代表の間で、中国・遼東半島の租借権を得るなど日本側に有利な条件で平和条約が調印された。講和会議の本会議は、造船所で開かれたが、代表団は「このホテルに滞在し、非公式折衝の舞台にもなった。」



【ニューヨーク29日】高木規矩郎「日露戦争の講和会議の際、日露両国の全権代表団が宿泊した米ニューハンプシャー州ポーツマス郊外のホテルの保存活動が、地元や日米協会の手で進められている。関係者は「日本人にも保存活動に参加してほしい」と呼びかけている。

ボストン日本人会行事

- 8月 8日(日) 盆踊り 於ボストン東スクール
- 8月22日(日) 竹中真のジャズ コンサート
- 9月18日(土) 新島襄誕生記念コンサート
- 9月25日(土) ソフトボール大会
- 10月 3日(日) 秋祭り 於ボストン東スクール
- 10月10日(日) ルノワールと紅葉の旅

日本ボストン会入会申込連絡先

郵便番号 166
 杉並区和田1-13-19-606
 日本ボストン会事務局
 (電話)
 近藤百合子 0423-87-2466
 當間きよみ 0466-28-9568
 土居嘉子 03-3380-8419
 藤盛富美子 0474-67-6000
 侯野真由美 03-3920-8135
 柳沢豊子 03-3915-3405
 入会金送金先
 第一勧業銀行浜松町支店芝浦シーバンス出張所
 普通預金口座番号 1578981
 " " 口座名 日本ボストン会

「ゆかりのホテル残したい」 ポーツマス条約で歴史の舞台に 地元の米で「日本人も協力を」 保存運動

が調印された。講和会議の本会議は、造船所で開かれたが、代表団は「このホテルに滞在し、非公式折衝の舞台にもなった。」

現在、ホテルは閉鎖され、一部は取り壊されたが、日露代表団が宿泊した主賓館と正面玄関の外郭だけが残されている。だが、傷みがひどく、現在のオーナーは経済事情などを理由に、一時は全面取り壊しを決意していた。

しかし、和平の達成に向けての舞台になったという歴史を踏まえ、地元で保存活動が始めている。ニューハンプシャー日米協会も、今年四月には、本会議場となった海軍造船所とあわせて、保存活動を進める決議を採択。ニューキャッスル町の協力で、ホテルの敷地は、特別地域指定され、ホテルの保全が法律的にも認められた。その修復、補修や国際会議センター建設をあわせた再建築を作り、具体的な基金調達している。